

株主通信

平成27年11月



YBHD NEWS No.44



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード：5911



100年の責任。

つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

The Next Perspective

株主の皆様へ

To Our Shareholders



代表取締役社長

荒井 久司

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、株主通信「YBHD NEWS」第44号をお届けし、第152期上半期(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)の事業の概況につきまして、別記のとおりご報告申し上げます。

我が国経済につきましては、雇用・所得環境の改善傾向が続き、一部の企業においては収益の拡大が見込まれておりますが、依然として海外経済の減速に対する懸念等もあり、本格的な回復には至っておりません。このような環境下、先般、第3次安倍改造内閣が発足しましたが、経済成長に向けて政権が掲げる新3本の矢の具体化が急務となっております。

建設投資につきましては、東京オリンピックに向けたインフラ整備や首都高速道路等の大規模更新、橋梁の維持・補修を含めた保全事業の需要は高まっていますものの、今後はこれまで以上に予算の絞り込みが予想されるため、当社グループはシステム建築等のエンジニアリング関連事業に一層注力し、競争力の強化に努めてまいります。

当社は、株主の皆様に対する利益配分を最重要施策の一つと認識し、業績・配当性向などを総合的に勘案のうえ安定した配当をすることを基本方針としております。当期の中間配当金につきましては、1株につき8円とさせていただき旨11月9日開催の取締役会で決議いたしました。期末配当を合わせた年間配当金は、16円とさせていただき予定であります。

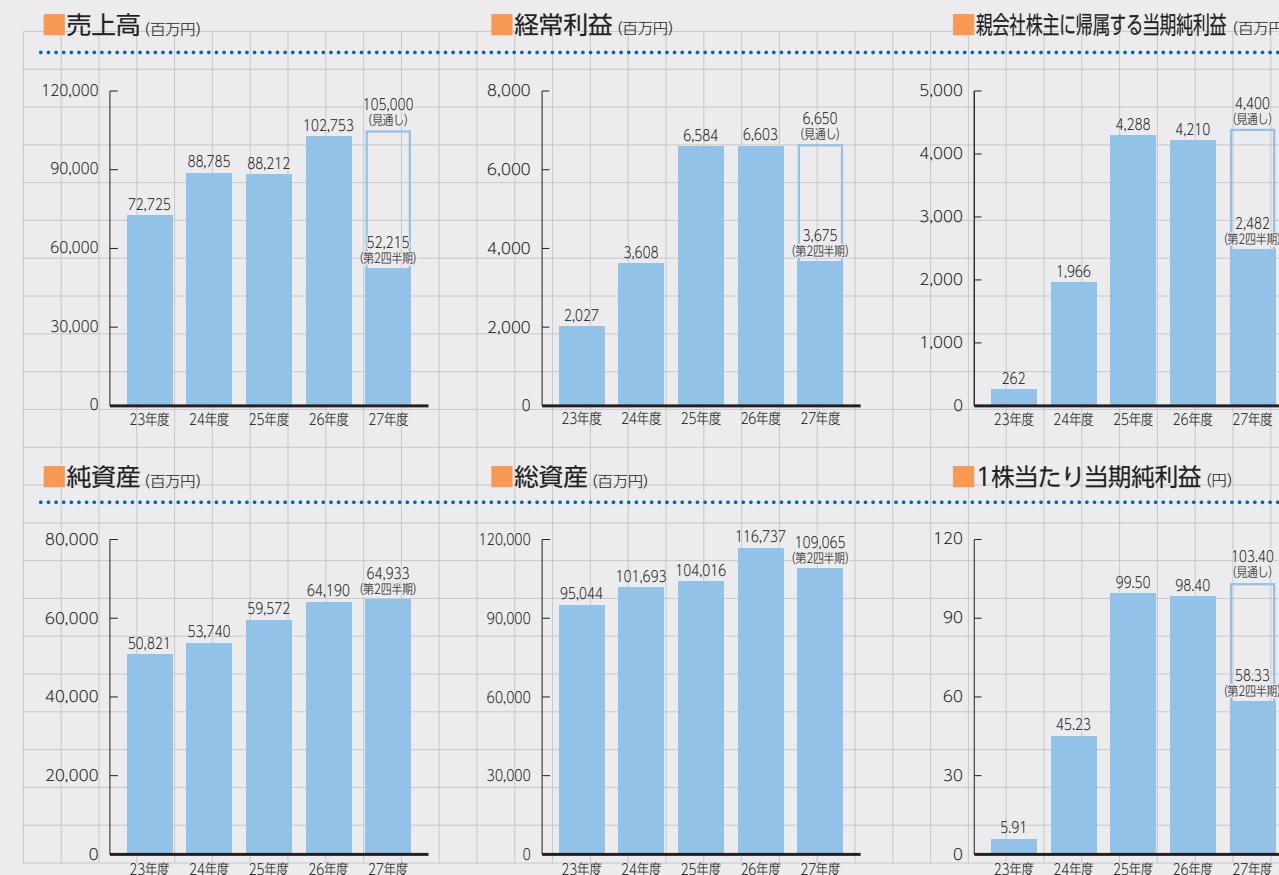
当社グループを取り巻く事業環境は依然として厳しい状況が続いておりますが、横河ブリッジと横河工事の合併効果を早期に実現し、役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年11月

財務ハイライト (連結)

Financial Highlights

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (第2四半期)
売上高 (百万円)	72,725	88,785	88,212	102,753	52,215
経常利益 (百万円)	2,027	3,608	6,584	6,603	3,675
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	262	1,966	4,288	4,210	2,482



当社グループの第2四半期の業績につきましては、受注高は536億1千万円(前年同期403億5千万円)売上高は522億1千万円(同473億円)親会社株主に帰属する四半期純利益24億8千万円(同17億6千万円)となりました。各事業別の状況は次のとおりです。

1 橋梁事業

受注高は311億6千万円(前年同期比33.3%増)となり北海道開発局・新石狩大橋LA橋、中部地方整備局・揖斐川橋、西日本高速道路・清水川橋他2橋など新設橋梁の受注を重ねることができましたことに加え、中日本高速道路・小田原地区鋼橋補修、西日本高速道路・山中川橋他14橋落橋防止などの大型保全工事を複数受注できましたため、受注高は前年同期を大きく上回りました。

売上高は豊富な手持ち工事の進捗により344億4千万円(同9.4%増)と前年同期を上回りました。

営業利益は25億4千万円(同23.2%増)と、全体的に受注時の採算が改善傾向にある中で、第2四半期において竣工間近の工事を中心に損益を改善することができましたため、前年同期を上回りました。

2 エンジニアリング関連事業

受注高はシステム建築事業の受注が大型工事の増加で伸長し、土木関連事業の受注も前年同期以上となりましたため、212億8千万円(前年同期比38.0%増)と前年同期を

大きく上回りました。

売上高はシステム建築事業を中心に前年同期を上回り162億7千万円(同13.8%増)となりました。

売上高の増加に加え、土木関連事業の不採算工事が減少したことなどにより利益率が改善し、営業利益は13億7千万円(同36.8%増)と前年同期を上回りました。

3 先端技術事業

受注高は第2四半期におきましても若干低い水準で推移しましたため、受注高は11億6千万円(前年同期比25.0%減)、売上高は11億1千万円(同3.4%減)となりました。営業利益は1億1千万円(同18.5%減)となりました。

4 不動産事業

不動産事業の売上高は3億8千万円(前年同期比0.2%減)となりました。

今後の見通し

当連結会計年度は架設工程にある新設橋梁の大型工事が多く、それら一つ一つの工事採算の改善・悪化が通期業績全体に大きく影響いたします。売上高につきましては当第2四半期累計期間では計画どおりの進捗となりましたが、営業利益につきましては、第1四半期では工事損失引当金の追加計上などにより低迷し、第2四半期では竣工間近の工事の損益改善などで持ち直し、その結果当第2四半期累計期間では当初予想を約14%上回ることができました。

第3四半期以降も採算が悪化している工事を中心に設計変更増の獲得、原価の削減等に注力してまいります。

以上のような状況をふまえ、平成27年5月14日に公表いたしました平成28年3月期の連結業績予想を、営業利益66億円、経常利益66億5千万円、親会社株主に帰属する四半期純利益44億円と上方修正しております。

01 九年橋橋梁修繕工事

TOPICS ~老朽化した橋をリニューアルしました~

平成25年7月より約2年間の全面通行止めを行い横河工事(株)(現・(株)横河ブリッジ)が施工してまいりました「九年橋橋梁修繕工事」がこのたび無事竣工を迎えましたのでその概要をご紹介します。

工事名称：九年橋橋梁修繕工事
 工期：平成25年6月28日～平成27年6月30日
 発注者：北上市
 施工者：横河工事(株)(現・(株)横河ブリッジ)・(株)小原建設JV
 施工概要：床版取替2478㎡、桁補修補強48t、支承取替56基、主桁連結44箇所、塗替塗装約5400㎡
 所在地：北上市下鬼柳4地割地内

九年橋は、北上市内中心部を横断する一級河川和賀川を渡河しており、現在でも地元の主要道路の一部として利用されています。橋長は、334mで9径間単純2主鉄桁154.8m(昭和8年完成)と8径間単純4主鉄桁179.2m(大正11年完成)で構成されており、供用開始から約80年以上経過している現役橋梁です。

本橋は、国～県～市と管理移管を繰り返してきており、その都度、床版の鋼板接着補強や主桁補強、塗替塗装等、幾度かの維持修繕工事が行われてきましたが、床版の損傷や塗膜の再劣化、主桁の腐食による損傷劣化が著しいとの点検・診断の結果判定により、既設主構造を再利用した長寿命化対策として上部構造全体の大規模改修を行いました。

当社グループは、今まで培ってきた橋梁の長寿命化対策技術で社会インフラの維持の一翼を担い続けてまいります。



02 東本願寺阿弥陀堂素屋根解体工事

TOPICS ~11年の時を経てお披露目されます~

表紙の写真もご覧ください

工事名称：東本願寺阿弥陀堂素屋根解体工事
 工期：平成27年2月16日～平成27年9月12日
 発注者：宗教法人 真宗大谷派
 客先：(株)大林組
 構造、規模：鉄骨造79.3m×70.5m 軒高51.38m
 鋼重：3,173t
 所在地：京都市下京区常葉町754

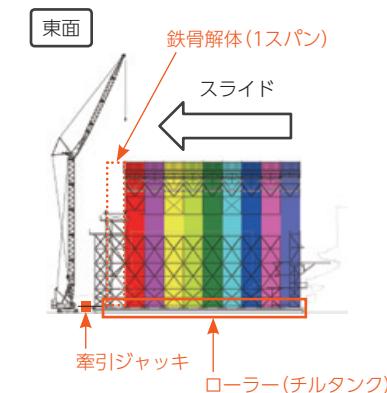
本工事は、阿弥陀堂を覆っている素屋根鉄骨の解体工事です。(素屋根：工事中の建物を保護するためのもので、完成したときには取り払ってしまう仮の屋根。)

2004年より宗祖親鸞聖人750回忌特別記念事業として修復工事を行うために1期工事では御影堂に素屋根を建設しました。2期工事(2009年)では素屋根を御影堂から阿弥陀堂へ67m移設しました。

今回の3期工事では役目を終えた素屋根を解体します。

いずれの工事もスライド工法を採用しています。文化財上空での鉄骨工事を避け狭い敷地で効率よく解体を行います。柱部にローラーを設置し、牽引ジャッキでスライドして1スパンずつ解体しました。

最後に無事故・無災害で工事を完了することができ、関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。



連結財務諸表

Financial Statements

■ 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 平成27年9月30日現在	前 期 末 平成27年3月31日現在
資産の部		
流動資産	70,010	76,386
現金預金	5,608	13,298
受取手形・完成工事未収入金等	53,288	55,297
有価証券	6,861	2,903
たな卸資産	1,060	1,144
その他	3,218	3,779
貸倒引当金	△ 27	△ 37
固定資産	39,054	40,351
有形固定資産	18,565	18,233
土地	9,760	9,760
その他(純額)	8,804	8,473
無形固定資産	885	903
投資その他の資産	19,603	21,214
投資有価証券	16,610	17,929
退職給付に係る資産	—	371
その他	2,992	2,935
貸倒引当金	—	△ 23
資産合計	109,065	116,737

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 平成27年9月30日現在	前 期 末 平成27年3月31日現在
負債の部		
流動負債	32,562	35,007
支払手形・工事未払金等	17,518	19,655
短期借入金	—	5,700
1年内償還予定の社債	2,500	—
1年内返済予定の長期借入金	3,500	—
未払法人税等	1,031	1,138
未成工事受入金	1,821	1,324
工事損失引当金	2,251	2,351
賞与引当金	1,880	1,808
その他の引当金	64	64
その他	1,994	2,964
固定負債	11,568	17,539
社債	—	2,500
長期借入金	300	3,800
役員退職慰労引当金	584	570
退職給付に係る負債	8,214	7,613
その他	2,469	3,055
負債合計	44,131	52,546
純資産の部		
株主資本	60,223	58,082
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,089	10,089
利益剰余金	42,835	40,693
自己株式	△ 2,136	△ 2,135
その他の包括利益累計額	3,638	5,112
その他有価証券評価差額金	4,724	5,625
土地再評価差額金	△ 947	△ 947
退職給付に係る調整累計額	△ 137	434
非支配株主持分	1,071	995
純資産合計	64,933	64,190
負債純資産合計	109,065	116,737

■ 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 平成27年4月 1日から 平成27年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 平成26年4月 1日から 平成26年9月30日まで
売上高	52,215	47,307
売上原価	44,873	40,880
売上総利益	7,342	6,426
販売費及び一般管理費	3,689	3,491
営業利益	3,653	2,935
営業外収益	212	228
営業外費用	190	153
経常利益	3,675	3,010
特別利益	155	0
特別損失	29	30
税金等調整前四半期純利益	3,800	2,979
法人税等	1,240	1,155
四半期純利益	2,559	1,824
非支配株主に帰属する四半期純利益	77	60
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,482	1,763

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 平成27年4月 1日から 平成27年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 平成26年4月 1日から 平成26年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	3,413	△ 656
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 557	△ 2,684
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 6,042	△ 1,266
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 3	6
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 3,189	△ 4,600
現金及び現金同等物の 期首残高	14,271	19,886
現金及び現金同等物の 四半期末残高	11,081	15,286

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式情報 (平成27年9月30日現在)

Stock Information

株式の状況

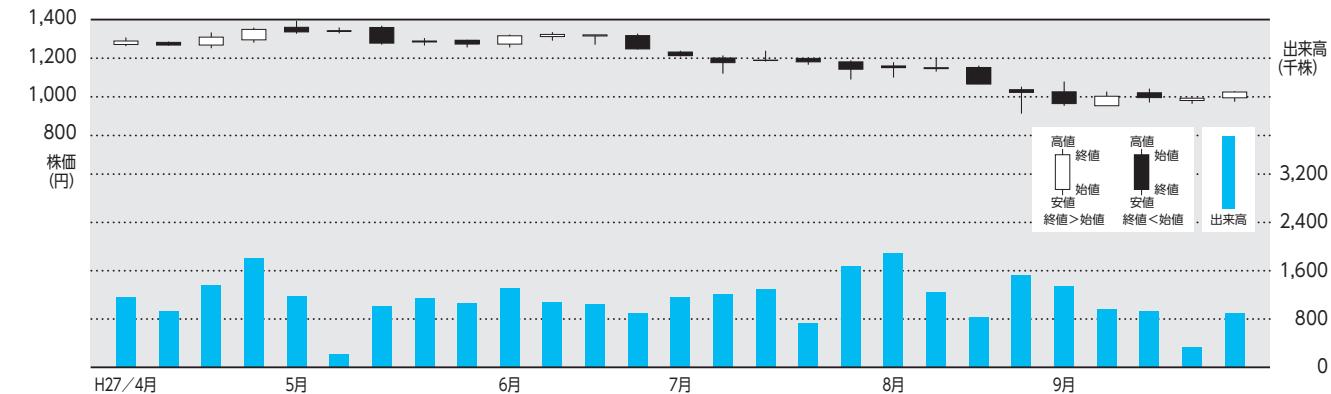
発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式総数	45,564,802株
株主数	7,421名

大株主 (上位10名)

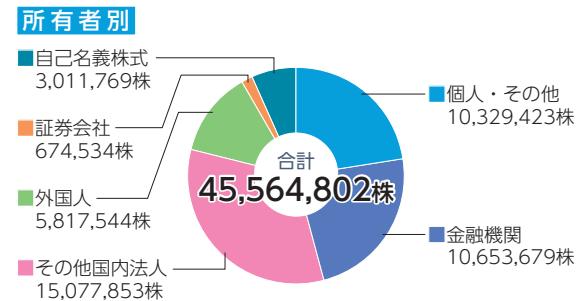
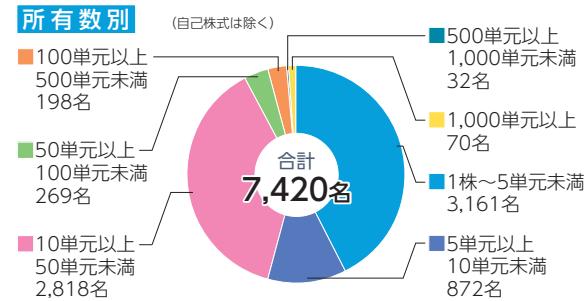
株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,802,800	6.58
横河電機株式会社	2,793,691	6.56
新日鐵住金株式会社	1,987,303	4.67
GOLDMAN, SACHS & CO.REG	923,700	2.17
株式会社みずほ銀行	890,612	2.09
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	767,300	1.80
住友不動産株式会社	674,000	1.58
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	641,800	1.50
東プレ株式会社	616,000	1.44
株式会社ユーシン	601,000	1.41

(注) 1. 当社は、自己株式を3,011,769株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株価および出来高の推移



株式分布状況



会社概要

Corporate Data

会社概要

社名	株式会社横河ブリッジホールディングス
所在地	〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL:03-3453-4111(代表)
資本金	9,435百万円
主な機能	経営戦略、法務・監査、経理・財務 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

YBHDグループ

- 株式会社横河ブリッジホールディングス**
グループ全体の経営管理
- 株式会社横河ブリッジ**
橋梁・橋梁関連製品・土木・建築・保全・精密機器製造
- 株式会社横河システム建築**
システム建築・開閉式建築システム・環境
- 株式会社横河住金ブリッジ**
橋梁・橋梁関連製品・セグメント
- 株式会社檜崎製作所**
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品
- 株式会社横河技術情報**
情報処理サービス・ソフトウェア開発
- 株式会社横河ニューライフ**
不動産管理・情報システム・人材派遣
- 株式会社ワイ・シー・イー**
橋梁等構造物の総合エンジニアリング

役員一覧 (平成27年10月1日現在)

代表取締役会長	吉田 明
代表取締役社長	藤井 久司
取締役	高木 清次
取締役	名取 暢
取締役	猪岡 修治
取締役	金子 俊一
取締役	高田 和彦
取締役	北田 幹直 (社外取締役)
常勤監査役	北爪 恒平
常勤監査役	深沢 誠
監査役	志々目 昌史 (社外監査役)
監査役	八木 和則 (社外監査役)
監査役	西山 重良 (社外監査役)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.ybhd.co.jp/

※表紙の写真は京都市にある東本願寺阿弥陀堂です。

横河工事(株)(現・株)横河ブリッジ)が工事用の仮設屋根(索屋根)の建設・移設および解体工事を施工しました。



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL. 03-3453-4111(代表) <http://www.ybhd.co.jp/>

